

「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【富里南小学校】

令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理科	学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の二つの内容区分からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

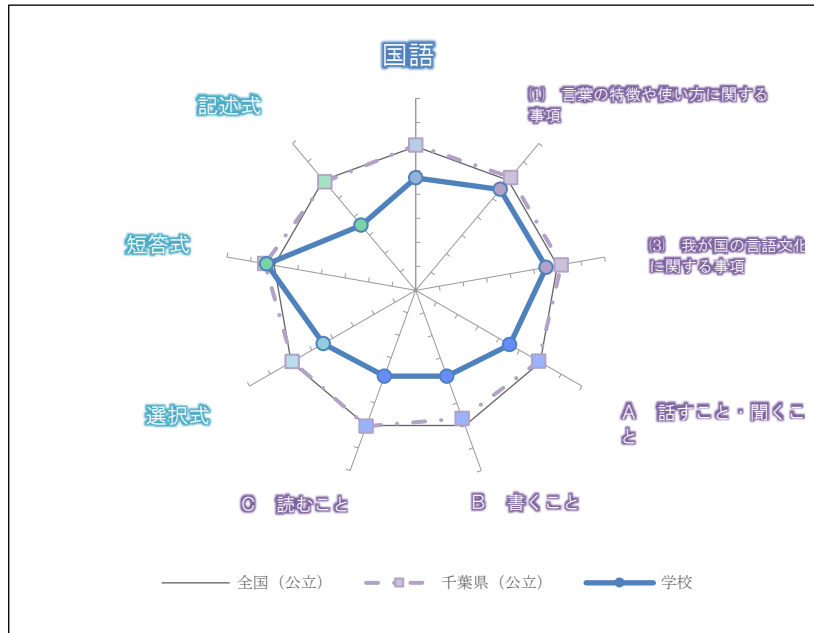
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



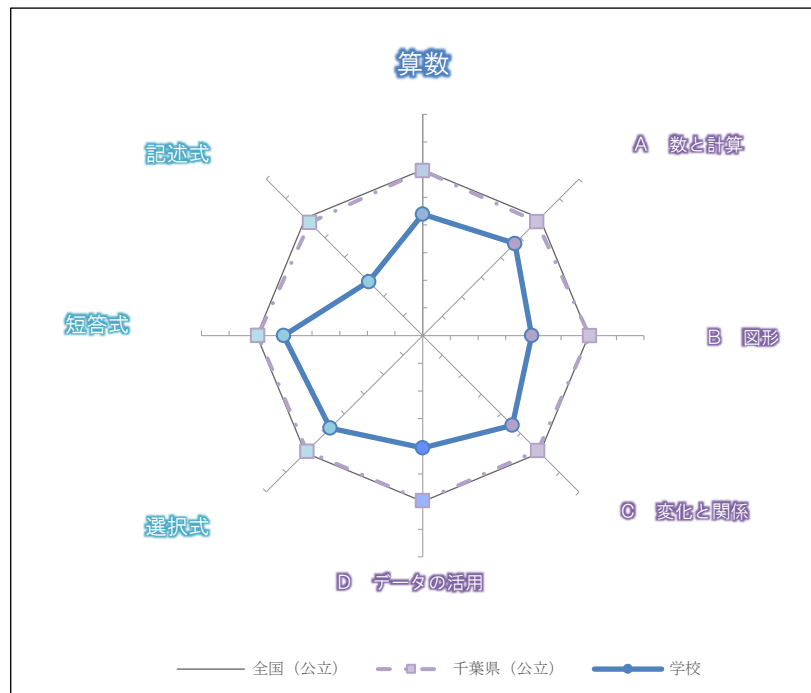
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 漢字を文の中で正しく使うことについては、概ね全国平均と同様に正答しています。
- 「書くこと」と「読むこと」の領域では、正答率が下回っています。文章の要点をつかんだり、必要な情報を選んだりすることに課題があります。
- 「記述式」の問題において、正答率が下がっています。無解答率も高くなっています。目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にして、まとめて書くことに課題があります。

【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習などを通して漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、国語辞典を活用して語彙を増やしたり、文章の中で文脈に合った適切な言葉を選択したりする力が身に付くように、指導していきます。
- 「読むこと」については、文章の要点をつかんだり、必要な情報を選んだりする場面を設定し、読み取りの力が付くように指導していきます。
- 「書くこと」については、視写を取り入れたり、要点を簡単にまとめた文を書いたり、日記や自分の思いを書いたりする活動を積み重ねて、書くことに抵抗感を減らせるようにしていきます。
- 「話すこと・聞くこと」については、スピーチやペアトークを行い、自分の思いを伝えられるようにする活動を積み重ねていきます。
- 毎日の家庭学習で、漢字練習や音読、読書、日記等を継続して行うよう、児童に指導しています。ご家庭でも、ご支援お願いいたします。

算 数



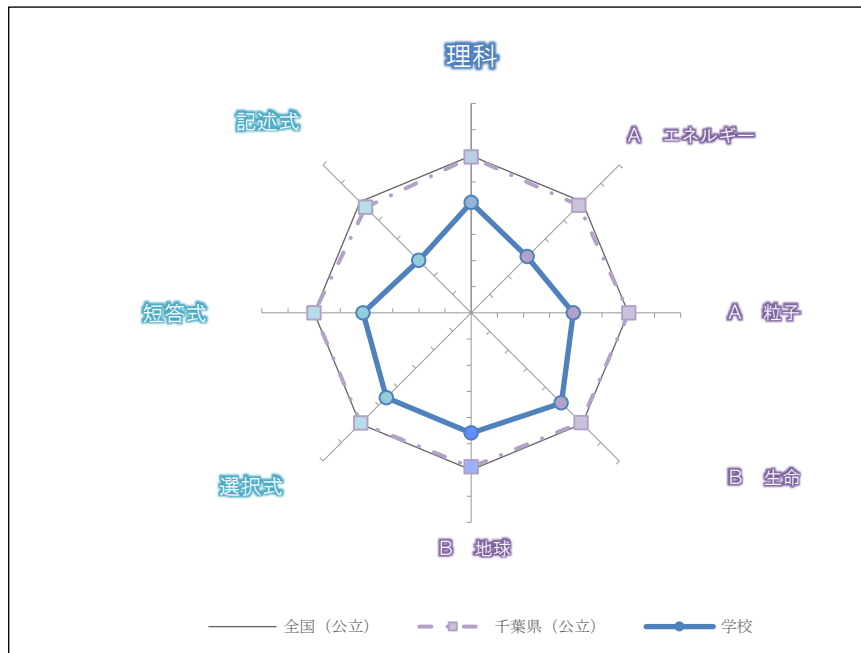
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 図形に関する領域は、プログラミングの問題で、今までに取り組んだことがなかったことで、頭の中で解法をイメージできなかつたと考えます。
- 記述式の問題の正答率が下回っています。また、無解答率が高い傾向にあります。
- 記述式の問題については、計算することができても、答えをまとめる力が不足し、正答までたどり着くことができなかつたと考えます。

【改善方策等】

- これからもドリル学習や「とみの国」検定の練習、「計算検定（100マス計算）」などを通して、基礎・基本的な計算力が身に付くように努めてまいります。
- 問題文から場面の状況を読み取る力が必要です。問題文からわかることを図や表、数直線などに表す活動を通して、問題解決の見通しがもてるように指導してまいります。
- 記述式の問題に課題が見られました。思考の過程を表現する方法が身に付くように指導していきます。特に、児童同士が考えを交流し、深め合う活動にも積極的に取り組んでいきます。
- 毎日の家庭学習で、ドリルやプリント学習を継続して行うよう、児童に指導しています。ご家庭でも、ご支援お願いいたします。

理 科



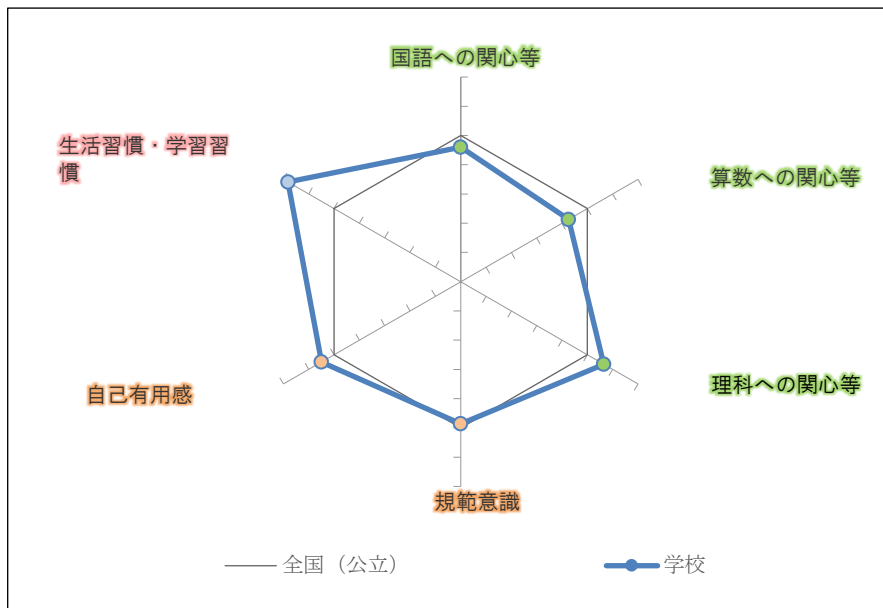
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- メスシリンダーの名前や目盛りの読み方の正答率が下回っています。
- 記述式の問題へ取り組みが低くなっています。自分の考えをもって、言葉にすることが課題となっています。

【改善方策等】

- 実験や観察を通して、不思議さから問題を見出し、予想や仮説、生活経験や既習事項から考え出し、問題解決を図るような流れを意識して学習を進めてまいります。
- 自分で考え出した考察を、グループやクラスで意見交換したり、議論したりすることで、自分の考えをより良いものにしていく活動を取り入れていきます。
- 算数や理科の学習で長さやかさをはかる器具の目盛りを読む学習を繰り返し行い、身に付く様に努めてまいります。
- 日常生活においても、自然科学的な疑問を見付け、それを解決するために図鑑やインターネットで調べることに取り組めると良いです。ご協力お願いいたします。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」「学校に行くのは楽しいですか」「友達と協力するのは楽しいですか」「将来の夢や目標をもっていますか」という質問を肯定的に捉えている児童が多いことがわかりました。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という質問を否定的に捉えている児童が多いことがわかりました。
- 平日のゲーム時間が2時間以上と回答した児童の割合が6割以上、4時間以上ゲームをしている児童も約3割いました。
- 平日に携帯電話やスマートフォンでSMSや動画視聴などを、2～3時間以上している児童が5割、4時間以上の児童も約2割もいることがわかりました。
- 家庭学習については、平日1時間以内の児童が約4割、休日は1～2時間の児童が約3割、1時間以内の児童が約4割、全くしない児童が約1割であることがわかりました。全国的には、平日、休日共に1～2時間学習している児童が多くなっています。

3 まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めていきます。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させていきます。また、授業はもちろんのこと、学校生活全般において、友達同士がお互いに認め合う雰囲気をつくれるように努め、自己肯定感を高められるようにしていきたいと思います。

家庭での生活・学習習慣と学力に関連があるという調査結果があります。ご家庭では、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣が身に付けられるように、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。